

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部

令和六年四年度 入賞句一覧 投句数 七百三十一句

特選

名和 永山 選

始まりも終はりも一ト日桜かな

本巢市

山田 香山

今年の桜の開花は例年よりも遅く、多くの人が桜を待ちわびていた。気候の変動が激しく、いつもより早く散つてしまった。「あつという間に咲き出し、そして、あつという間に散つてしまった」そんな今年の桜だったかな。「一ト日」だったと、作者も感じたであろう。末尾が「かな」で終わっているの、一見して「一ト日」で切れがあるように思えるが、「一ト日であつたような」と省略されていると鑑賞すべきである。

大津絵の筆のはこびや藤の花

神奈川県川崎市 立野 音思

「大津絵」は元禄時代ごろ、大津の追分あたりで売り出されて流行した、仏像・民間信仰・伝説などを描いた絵。簡素な筆づかいで素朴な味わいがある。また、「大津絵節」の略でもある。歌舞伎舞踊。襖・掛軸から大津絵の人物が抜け出して踊るという趣向。現在も「藤娘」「座頭」「槍奴」などが残る。こうした歴史に裏付けされている内容を詠み込むのは難しいが、大津絵から「藤娘が踊りだす」雰囲気巧く表している。

卒業子ハグする友の鼓動かな

岐阜市 伊藤 をさむ

親友との別れ。卒業という節目で、きつと遠くへ行つてしまうのだろう。小中学校の卒業なら、またすぐに会えることもあつて「ハグ」することはないと思われるが、高校や大学では、別れがたき親友との別れはよくあることである。その友の鼓動を感じ取ることで、普通では感じられない深い友情があつたのだらうと想像できる。

秀逸

長旅の目刺の藁をすうつと抜き

福井県敦賀市 山田 美千代

追ひかけて追ひかけられてしやぼん玉

大垣市 高木 佐知子

寒明けや引越しの荷の手順よく

安八郡輪之内町 野村 照子

考妣へ何はさておき桜餅

大垣市 樋口 絹子

春光や幾度と背負ふランドセル

大垣市 早筈 千恵子

雛の間に座敷わらしの膝小僧

大垣市 久保田 悟義

散つてなほ誘なふものに花筏

海津市 水谷 勲一

桜散る一筆箋は三枚に

大垣市 川瀬 恭子

桜咲く解らぬままの歎異抄

大垣市 吉川 和子

朝は五分夕は満開花だより

三重県桑名市 岩瀬 むつみ

入選

沈丁花風の道ある祖父の家

大垣市

遠藤 加容子

寄り添うて風に戯る水仙花

大垣市

松岡 みつ

水温む誤解ほぐれし母と娘よ

大垣市

傍島 豊子

つぶれても幼の宝つくつくし

大垣市

宇佐美 昭子

常備菓紙風船の添へられて

大垣市

尾関 逸子

桜狩りバスストップの錆びた文字

東京都狛江市

椎野 一恵

札所まで長き石段花ふぶき

大垣市

平野 きぬよ

指切りに時効のあるや卒業歌

東京都世田谷区

関戸 信治

春耕や洗ひざらしの紺がすり

大垣市

早筈 千恵子

痛み止めなかなか効かぬ亀の啼く

大垣市

川瀬 恭子

蜜柑もぎ飛鳥の民の顔となる

群馬県館林市

坂口 いちお

母さんの癖字に似たりアスパラガス

大垣市

大橋 真由美

黄水仙うなずくだけの聞き上手

神奈川県相模原市中村

光枝

それぞれの丈の風待つつくづくし

東京都足立区

木幡 忠文

草萌や媼の杖の花模様

不破郡垂井町

北村 廣美

選者吟

風呂敷は童のつばさ青き踏む

永山



一般の部